

集おう!甲陽健児

-21世紀-初の会員総会

● 8月25日(土)・14時～17時 ●

於：甲子園都ホテル

甲
陽
だ
よ
り

今回は、我々の故郷であり、母校建学の地・阪神間の足元を見直そうという、再発見・再認識の旅を企画しました。そして、そのテーマを「母校と阪神間の風土を語る」とし、阪神間の歴史・文学・阪神間のモダニズムなどを総合的に捉え、母校・甲陽の「甲陽史学会」が阪神間地域学のルーツであり、その発祥から果たした役割などを検証してみたいと思います。

これらのことは、母校・甲陽の再認識にも繋がり、21世紀に向かって甲陽学院同窓会の在り方・進み方に、一つの示唆を与えるのではないかと考えます。我々は同じ学び舎から羽ばたき、現在があります。心の奥底に潜む「甲陽」の二文字は消え去るものではありません。

今夏の会員総会は、下記の要領で開催致します。同期の友人たち・各クラブの仲間たち、先輩・後輩の知己をお誘い合せて、どうぞ奮ってのご参加をお願い申し上げます。もちろん、ご家族の方々も大歓迎であります。今回のテーマは、ご家族の方々にも興味ある内容が豊富に盛りられていると思います。どうかご期待下さい。

発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 平田 豊

印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
(月・水・木・金 10:00~16:00)
FAX 0798-71-4890
甲陽ホームページ
<http://www.kabto-yama.ac.jp/koyo/>

第一部**■「阪神地域学」フォーラム**

《パネルディスカッション》

◎テーマ… [母校と阪神間の風土を語る]

◎パネリスト…

*衣川 俊雄 (28回)

宝塚市・元助役、現在 種智院大学事務局長。

*橋本 久 (41回)

大阪経済法科大学教授。甲陽史学会。

*久 義裕 (62回)

久金属工業(株)取締役。甲陽史学会。

◎ゲスト・パネリスト…

*堀江 珠喜 (神戸女学院大学卒。同大学大学院修士課程、神戸大学大学院博士課程修了) 園田学園女子大学助教授を経て、大阪府立大学総合科学部 教授。著書に『薔薇のサディズム-ワイルドと三島由紀夫』『悪女の手帳』など。西宮市生、芦屋市在住。

◎コーディネーター…

*河内 厚郎 (52回)

「関西文学」編集長。夙川学院短期大学教授。兵庫県芸術文化協会・特別参与。

■ご参加の皆様には、「阪神文学史年表」のパンフレットをお配りします。特に今回は、フォーラムに新風を期待して、ゲスト・パネラーを起用させて頂きました。

第二部**■懇親会**

[恩師・仲間と語ろう同窓会]

大好評を頂いています懇親会の企画を、更に内容豊富に充実を図りました。また、新しい企画も盛り込んでいますので、皆様のご期待にそえるかと思っています。

① “恩師・仲間” と「甲陽」を語り合おう。

お世話になった恩師に、ぜひのご出席をお願いしています。また、懐かしい同期の方々の参加も、今回の世話役の方に、呼び掛けをお願いしています。先輩・後輩の垣根を越えて、同じ学び舎で青春を謳歌した仲間として、共通の思いを語り合う場を設けています。「甲陽」は、お互いの心の故郷です。

② “ホームカミングデー” (32回生と57回生)

昨年からの新しい企画です。卒業後25年目と50年目の方々、今年は「32回生」と「57回生」が該当します。これは、日頃から何かとご多忙でお集まりの機会が少ない方々に、卒業25年と50年目の節目に、お集まりになる場を提供したい、我々も同じ甲陽の仲間として、この節目をお祝いしたいとの思いから企画をさせて頂きました。この回の理事・評議員の方に、別途にご連絡を致しますので、同期の方々への呼び掛けをお願いします。記念品の贈呈も行います。

③ “ミニ同期会には、名札を立てたテーブルを提供”

昨年から、皆様にミニ学年同窓会の場を提供する考えで、10人以上お集まりのグループ（同期会の他に、クラブOB会・同好会・等）には、名札つきのテーブルをご用意させていただきます。この企画は、会員総会を一次会的な意味でご活用して頂ければとのことと、各学年・クラブOB会などが、集まりやすくなるのではとのことから、会員総会を気安くご活用して頂きたいとの願いからの企画であります。

ぜひ、お仲間をお誘い合せの上、奮ってのご参加をお待ちしています。なお、名札・テーブルの用意がありますので、必ず前々日（2日前）までに、事務局まで幹事の氏名と確定人数をお知らせ下さい。

参加人数がトップクラスのグループには、記念品を用意させていただきます。

④ “甲陽クイズ” と “甲陽歌の合唱”

昨年、好評を博しました楽しい“甲陽クイズ”も用意しました。全問正解の方々には、賞品を謹呈させていただきます。

また、終宴を飾る・あの懐かしい“甲陽の歌”の数々は、全員が一つの輪になって、お互いの肩を抱きあい、若き頃の青春の思いを、力強く合唱しあいたいと願っています。勿論、コーラス部OBや応援団OBの方々が、輪の中心になり・応援旗をはためかせます。

⑤. “懇親パーティー”

パーティーには、甲子園都ホテルの美味しい料理と、ご寄贈を賜りました「白鹿」・「白鷹」の日本酒と、サントリーのビールとウイスキーも、十分に用意いたしましたので、皆様のご参加をお待ちしています。

◇ 「 阪 神 地 域 学 」 に つ い て ◇

河内 厚 郎 (52回)

七十年代の終わりに村上春樹の小説が登場したときの静かな衝撃は今も忘れることができません。若者たちの反乱が去ったあとの「風の風景」をあざやかに切りとった文学は、新しい時代の到来を感じさせたものです。その村上春樹氏が、われらが母校、甲陽学院で教鞭をとられた村上千秋先生の御息息と知ったときはびっくりしましたが、そういえば、村上春樹氏の垢抜けた文体には、阪神間の市民風土につながるような感性がたしかに見受けられます。その村上氏の文学に批判的な文芸評論家、柄谷行人氏は甲陽の出身ですが、甲陽学院のアイデンティティも建学の地である阪神の風土を抜きには考えられないでしょう。

いま各地で地域学が盛んになっています。阪神間の文化や歴史を総合的に検証する「阪神学」は十年ほど前にはじまり、少なからぬ「阪神物」の出版が地道におこなわれてきました。不幸な震災の後もそうした動きは下火にならず、平成九年には西宮市大谷記念美術館や芦屋市美術博物館はじめ阪神間の四つのミュージアムで「阪神間モダニズム展」が共同開催されて好評を博しています。この「阪神学」の盛り上がりには当地に特有の「私学の

風土」が介在しているようです。しかも甲陽人脈に一つのルーツがあるといっても過言ではないのです。宮川秀一・高井悌三郎の両先生が尽力された「甲陽史学会」の地道な活動は識者に知られるところですし、いまジャーナリズムから注目されている「えびす信仰の研究会」は、宮川先生の奉職された大手前大学が事務局となっています。

その宮川先生が昨年暮れになくなられ、高井先生も辰馬考古資料館の館長を退かれて、歳月を感じさせる今日この頃ですが、青少年の人格を形成する「地域力」があらためて指摘されるようになった今、甲陽建学の地、阪神間の市民文化を、わたしたち同窓生の手で再発見してみたいと考えました。

私をふくめ各時代の四人の卒業生が甲陽の思い出と阪神の風土を語り、ゲストスピーカーには阪神間のファッションや社交文化に詳しい堀江珠喜さんをお招きします。

阪神地域の市民文化形成に母校がはたした役割というのは、決して小さくないはずです。

information

日 時	平成13年8月25日(土) 第1部 午後14時～15時20分 第2部 午後15時30分～17時頃
会 場	甲子園都ホテル(TEL0798-48-1111)
会 費	一般会員 4,000円(当日会費) 学生会員 2,000円(当日会費) 同伴家族 2,000円(当日会費) 新卒者(平成13年3月卒) 無料 1回生から27回生 無料 同伴子供・特別会員 無料

申込み方法 *同封の振替用紙で、8月20日(月)までに会員総会の会費をお振込み下さい。この場合は、特別割引として、一般会員は3,500円、学生会員・同伴家族は1,500円とさせていただきます。

*会費の無料の方は、ハガキ・電話・FAXなどで、ご出席のご連絡を事務局までお寄せ下さい。

問合せ先 甲陽学院同窓会・事務局。
〒662-0096 西宮市角石町3-138
TEL 0798-71-4888(月・水・木・金)10時～16時
FAX 0798-71-4890
E-mail fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

※中学校、高等学校へのお問合せはご遠慮下さい。

同窓会に望むもの

◆懐かしく語り合うだけでなく

副会長 横内 昭 (34回)

人がこの世に生を受けその一応の人生を終える間に、誰もたった一人で生きる人、あるいは生きた人はいない。数え切れない人との数え切れない場での関わりあい、人生というものであろうと思う。人はこの「関わりあい」すなわち「人間関係」を、「親族」「学校」「職場」の三つの主要な場で得てきている。父母から生を受け、兄弟姉妹あるいは祖父母を身近に、そして時に叔父叔母、従兄弟と接しながら人として極めて初期の人間関係を経験する。そして学齢に達するや、初等教育に始まる義務教育期間を経て、その後長い人は20年にも及ぶ「学校」生活を生きる。ここでは先生と学友の関係が構築される。「職場」に入り、それが会社であれ、役所であれ、自由業であれ、人は人間関係のいわば最後の大舞台に上がる。この三段階の「人間関係」形成の過程は、そのことごとくが際立って意味合いと役割が違うことに気付くではないか。同窓会を考えるにあたって、私は自分の人生の重要な中間に当たる部分がなにであったかという事と重ね合わせて考えている。此処にいう同窓会は、勿論甲陽学院同窓会だけではないが、自分にとって同窓会はどんなものであって欲しいか、何を望むかといわれれば、再び

取り戻せない人生の中間部において「学校」生活を通じて体験した感動、衝撃、苦悩、歓喜、挫折といった様々な体験を今はただただ懐かしく友と語り合える「場」と答えるのが正直なところである。翻って、今日の学校、教育を取り巻く状況を見ると、それは複雑、そして時に怪奇ですらある。学級崩壊、学内暴力、いじめ問題、ゆとり教育の是非、少子化対策、歴史教科書に対する他国の干渉、そして新たな教育基本法への道程を考える時、ただただ自分達だけの感傷に浸っていて良いのかとの思いはある。幸いにして現実の我が甲陽学院においては、教育の本道を外さない伝統を守る法人と教育現場の先生方の真摯なご指導の下で、学院と後輩の生徒諸君の将来には些かの不安も無い。同窓会は堅苦しい議論の場ではない、とのご意見もあろうかと思うが、互いに子や孫を持つ身、国の将来を多少なりとも憂れう身になれば、現役の先生方を交えての「教育論」に胸襟を開くのも同窓会の楽しみ方ではなからうか。

◆会員総会に出よう!!

副会長 尾山 啓二 (35回)

みなさん、小学校から大学までの同窓会の中で、一番楽しい集いは、どの同窓会でしょうか。先日、私の会社の目ぼしい社員20人ばかりに聞いた処、中学又は高校の同窓会が、一番楽しいと答えた人が18人いました。

小学校は、懐かしさばかりが先に立ち、大学になると、学部なり、ゼミになると殆ど就職先が同じカテゴリーの中に入っており、話しても余り面白くないとの答えである。最も人生への考え方が培われ、人格形成の礎となる時期が、中学高校時代であり、その行先の職業は千差万別であり、恰もその同窓会は、異業種交流の場である。更に、我が母校は、快活・無邪気で、明るい精神の大先輩の100歳にならんとされる第1回生から、本年卒業の18歳迄が集える事は、他の公立、私立も羨む同窓会なのである。後輩諸君に、いつも君は、クラス会や、同期会に出席しているやに聞くが、どうして、総会に来ないのか?と尋ねる。すると「友達に来ていないから話す相手もなく面白くない」と言うのが大方の答である。私は、それを聞いて以来、1学年に1名乃至2名しか出席していない学年の処に行って話をする様心掛けているが、みなさんもどうか、そんな学年の人に声を掛けて下さい。きっと、次回からも出席してくれる様になるのではないのでしょうか。

さて、同窓会の会則によると、「同窓会は会員相互の親睦をはかり、母校の発展に寄与することを目的とする」と書かれているが、理屈より、クラス会、同期会は勿論のこと、総会にもまず出席有れかしです。楽しいことこの上なしと思いますヨ。同窓会は、会社ではありません。全卒業生の母校愛のみで運営される会なのです。今年の総会は、料理も少なかった、パネルディスカッションが、講演も面白くなく有意義じゃなかった等々みんなが文句ぶつぶつ言い乍ら、本当は、その本心は楽しくて愉快だったと思っているのが、同窓会なのです。

どうか、終身会費であれ、年会費であれ会費を必ず払うこと。総会には、万障くり合せて、必ず出席すること。

これこそ、我が母校を卒業し、同窓会会員としての義務なのです。

本夏の大会も、大挙甲子園都ホテルに集結し、更に愉快な総会にしようではありませんか。

◆顔と顔を合わせよう

副会長 田村 真也 (36回)

同窓会を構成する組織として、会長・名誉会長・副会長を始め、種々の役員の方々がおられます。これらの役員さんたち以外に、同窓会を実務的に運営していくために、会務運営委員会・会報編集委員会・会員総会運営委員会等の多くの委員会があります。ここで考慮しなければならないことは、実務を担当する諸委員会の委員の方々がお集まりのとき、如何に有意義で建設的な意見を述べられるかということだと思います。過去30年間、すべての委員会に参加させて頂いてきましたが、今までのところは、順調に運営されているように思われます。同窓会運営の基盤となり、かつ縁の下の力持ちとなるような種々の委員会の委員の方々には大変ご苦勞様なことではありますが、今後とも忌憚無きご意見を披露して頂き、ますますの同窓会発展に寄与して下さいをお願い致します。

ただもう一つ考慮すべき事があります。それは、各学年を代表して選出されているはずの理事の方々の理事会や役員総会への出席率です。仕事に全力投球をして自分の業務に熱中しているせいとは言え、20歳代から40歳代の理事の出席率が極端に低いことは、考え直さなければ

ならないことだと思います。理事を選出する際、必ずしも多忙な会社員でなくとも、比較的時間にゆとりの持てる、或いは融通のつけられる職業についている方も居るのではないのでしょうか。各期で再考して頂くことが肝要だと思われま

さらに、最後にもう一つ。理事を欠いている学年も多少見受けられます。もしその期で理事を選出することが何らかの理由で不可能であるとか、その期の世話を引き受ける適任の人物がいないというのであれば、会長或いは執行部の方で決定して、本人の了解をとる方法もあるのではないのでしょうか。

少し苦情めいたことを述べたりもしましたが、同窓生の集まりが開催されれば、平田会長が常々口にされていますFace to Faceの基本理念に立ち返って、必ずその集會に出席して、顔と顔を合わせることでお互いの親睦を図るよう心がけるようにして頂ければ、更に同窓会が活性化し発展していくことは疑いもないことと思われま

◆こんな同窓会に

副会長 守殿 貞夫 (41回)

甲陽学院同窓会副会長の一人として日頃考えております同窓会のあり方について愚見を申し上げたいと思います。

基本的に「同窓会」はいい会だといつも思っております。思春期の甘辛い話を思い出しく語り合う会、さらに年をとってからは互いの人生観やその悩み、老後を語り合う会であるかもしれません。しかし、このような事は同期会でいつも行えることです。全体の同窓会ではさらに、学年が離れた同窓の者が年の差を忘れて話ができる場であり、老いたる者が若い者へ年だから言えることを説くなど老若混ざっての会であってほしいものです。と言いますのは現在の同窓会の出席者の年齢階層をみていますと若い人達が少ないので、現在のわれわれの同窓会総会は世代を超えた語らいの場としての機能をあまり果たしていないように思われるからです。

多くの同窓生が集っていただけるにはその内容によることは周知の事実であり、これまでも理事会等で多くのアイデアが提示され、参加者の動員に貢献してきました。しかし、各年代の同窓が集まってきていただくまでには至らず、特に若い人達の動員にはつながっていません。何か工夫しないとこのままでは同窓会の先細りが心配されます。

年をとると同窓会への出席率は良くなるものです。どうすれば若い人が参加してくれるかに今後の同窓会の命運がかかっております。面白かったから次年度も参加し

てみようという、人を惹き付けるプログラムも必要ですが若い人達が参加してくれる同窓会にするにはその運営も若い人に任せるのがいいのではないかと考えます。若い会員に参加してもらえるように若い人が目立つような会にするのが一つの方法とも思っております。会長はもちろんのこと、理事も全て50歳未満の人とし、その構成は卒業後すぐから各年代にわたって50歳までの人達で理事会を構成するのです。極端すぎるようならお目付役として50歳以上の人達から監事を入れる方法もあります。若い人達が出席した時に顔なじみの先輩が理事として総会をはつらつと運営している姿を見て、またその先輩理事に気軽に話しかけられる事柄があれば若い人が参加してくれる総会になるのではないのでしょうか。

若い人達が同窓会総会に参加してくれないとの悩みは日本全国どここの同窓会でも遠い昔からある話です。私も執行部の一人ですので現会長の平田様をはじめ役員の方々のご苦勞を間近で拝見しておりますし、その活動をどうのこうのと非難する気は毛頭ありません。私の勤務しております大学の同窓会でも全く同じ悩みをもっておりますのでこのような意見をあえて申し上げているのですが、なかなかその切り替えの機会がないようです。

思い付くまま無礼なことを申し上げましたが、最後に甲陽学院同窓会が益々繁栄していきますことを祈念いたします。

◇明日への力となる同窓会

副会長 西村 貞一 (45回)

昨年突然「副会長になれ」との事で大変驚き、未熟者なのでとても勤まらない、また現役の社長では時間的に余裕もなく、ご辞退申し上げたのですが、押しきられてしまいました。しかし、選任された上では時間の許す限り努力をしていきたいと思っておりますので、よろしくご指導、ご支援の程をお願い申し上げます。

さて、今回のテーマであります「同窓会について」がありますが、何を書こうか大変迷ってしまったのですが、私が同窓会へ出席して感じた事をまとめてみたいと思います。

まず、同窓会に出席して感じますのは、特に甲陽の同窓会で感じますのは、やはり3年間あるいは6年間人間形成に大切な時期を一緒に生活をし、学んだ者の集まり

です。すぐに打ち解け、昔話に花が咲きます。また、学年が違いましても共通の話題、特に先生への思い出や、大きな出来事、クラブを共にする等々で共通の話題が数多くありますので、親しみを覚えていきます。このように楽しく思い出話に花を咲かせたひと時が我々の明日への力となりモチベーションされます。これは私の家族が良く言うのですが、同窓会があった後、家に帰ってきた時、非常に機嫌が良いそうです。

このような良さを今後もずっと維持していく為に学校をサポートするのがこの同窓会の大いなる役目ではないかと考えていますので、よろしく皆様のご支援、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。

◇新世紀をむかえて望洋会に贈る言葉

副会長 宗田 久雄 (高商1回)

新しい世紀の幕を開ける。21世紀が始まった。日を歩み、月を築いて、年が重なり、新しい世紀へと豊かな発展が拡がりつづいていく。この大転換期にあたり、望洋会諸兄達の高等専門学校時代を偲んでみよう。甲陽高商第1期生は学徒出陣のため、卒業を半期繰り上げて軍靴をはいて卒業していった。時代の要請から、高商は4期で工専となり工専2期生は在校生に見送られることなく卒業してやむなく廃校となった。今日まで各自おのおのが「懲りない、降りない、諦めない、生き方」を自然と教えられ、負けない人生を励まし合ってきたように思う。僅か6期間中に高等商業専門学校が高等工業専門学校に変校されることは日本の高等専門学校史上でも珍しく、山内先生（甲陽高校）が東京の学界で論文発表をされたところ、全国から注目されて問い合わせが殺到したという。阪神淡路大震災前の或る時、中村前校長先生が望洋会役員を一堂に集められた席上、山内先生を紹介されて、高商工専の歴史の編集に専門にあたって貰うことにした、ついでには資料の収集に心から協力して欲しい旨、話された。

又、大地震の校舎修復完成の或る日、御礼に校長室をお訪ねしたところ、あなたの念願の母校がみごとに修理することができた。新築するほどの修理費用を要した由、早速、高商工専史の経過を山内先生に架電されて確かめられ、母校の見学を兼ねて甲子園都ホテルで懇親会をされてはと校長室からわざわざ同ホテル支配人にかけ合っ頂いたことが今更のように思い出されて懐かしい。

この待ち望んだ待望の高商工専史なるものが5月の連休あけの今日、「甲陽高等商業専門学校、甲陽高等工業専門学校資料集」として、山内先生ご尽力により立派に

編集された。そしてこの秋に約300余頁に及ぶ記録が、別冊美装箱入れでもって陽の目を見るに到った。この度の度重ねての快挙に対し誠に感慨無量、望洋会のひとりとして中村前校長先生と山内先生のご尽力に対し深甚の誠意を表する次第である。

今度の両世紀にまたがる、大編集史の完成を機会に心機一転しなければいけないと思う。地震復興ばやりの「頑張れ」という一言は被災者を傷つけて当世ではもはや通用しない。従来通りの考え方をしているは新しいチーズはみつからない。変わらなければ破滅することになる。進んですばやく変わり再びそれを喜んで楽しもう。我等にはすばらしいユニークな平家建の桜材床の学び舎が毅然とした姿で現存している。望洋会の諸兄にお願い!!足腰の立つあいだに元気で変わって再び相見えることを期待してやまない。尚、ご意見・要望なりとも結構、弊社へ投稿願れば幸甚とする。いついつまでもおたっしやで負けない人生を励ましながらプラス指向で前進することを誓って挨拶にかえる次第である。

同 窓 会 に 望 む も の

中高だより

中学校コンピュータ室

中学校では今から3年前（1998年）にコンピュータ室がつけられた。生徒用コンピュータは予備も入れて全部で56台で、1人1台使える環境にある。コンピュータの授業は、中学2年生に週1時間行われ、タイピング、ワープロ、表計算、ネットワーク（インターネットなど）の使い方についての実習を行っている。また、タイピングの練習や音展前の冊子作成のため、ある期間昼休みや放課後に部屋の開放を行っている。



中学校栽培実習

中学校では5年前から1年生に栽培実習を行っている。今年はナスの栽培をしているが、1班（4人）で1株を担当し、みんな毎日熱心に世話をしている。6月12日現在いくつかの班ではすでに収穫が始まっている。

苗の植えこみ（5月下旬）



立派に育ったナス（6月中旬）



高等学校卒業式

毎年2月に行われている高校の卒業式について紹介する。式自体は簡潔なもので、卒業証書授与、学校長式辞、同窓会長祝辞から成っている。多くの生徒は初めてのスーツ姿で参列するが、中には縫いぐるみなどで仮装する者がいたりする（写真左参照）。

正規の式が終わった後には、卒業生たち自身がプロデュースする企画がある。お世話になった恩師へのインタビューや花束贈呈など、学年ごとに個性的な演出がなされる（写真右参照）。堅苦しくなく、かといってふざけすぎず、自分たちの卒業式を盛りあげている。



2002年度 中学校・高等学校募集要項

	中 学 校	高 等 学 校
募集人員	165名（2002年3月小学校卒業見込の男子）	45名（2002年3月中学校卒業見込の男子）
出願期間	1月7日(月)～1月12日(土)（郵送に限る・消印有効）	1月25日(金)～2月2日(土) 必着
考 査 料	20,000円	20,000円
考 査 内 容	①筆答考査 ②在籍小学校から提出の調査書審査	①筆答考査 ②在籍中学校から提出の調査書審査
考 査 日 程	1月29日(火) 国語（55分・100点）算数（55分・100点） 理科（55分・100点） 1月30日(水) 国語（55分・100点）算数（55分・100点） ◎両日とも受験生は午前8時中学校講堂集合完了 1月31日(木)合格者発表（午後5時・校内掲示）	2月9日(土) 国語（70分・200点） 数学（90分・200点） 2月10日(日) 英語（80分・200点） 理科（70分・150点） ◎両日とも受験生は午前8時30分高等学校講堂集合完了 2月11日(月) 合格者発表（午後3時・校内掲示）
入学手続き 入学者登校日	入学手続き時納入金を2月6日(水)までに銀行振込 2月9日(土) 午後2時 本人と保護者	入学手続き時納入金を2月14日(木)までに銀行振込 2月16日(土) 午後2時 保護者のみ
諸 経 費	入学手続き時納入金 入 学 金 200,000円 施設設備資金 230,000円 生徒会入会金 3,000円 合 計 433,000円 授業料等（年額・4期分納） 授 業 料 366,000円 教育充実費 159,000円 冷暖房費 20,000円 施設設備維持管理費 60,000円 育友会費 15,000円 生徒会費 5,000円 合 計 625,000円 <small>※左記以外に入学手続き時の学用品購入費として70,000円、また、経常時の野外活動・教材費等として95,000円必要です。</small>	入学手続き時納入金 入 学 金 200,000円 施設設備資金 230,000円 生徒会入会金 2,000円 合 計 432,000円 授業料等（年額・4期分納） 授 業 料 366,000円 教育充実費 159,000円 冷暖房費 20,000円 施設設備維持管理費 60,000円 育友会費 15,000円 生徒会費 5,500円 合 計 625,500円 <small>※左記以外に入学手続き時の学用品購入費として18,000円、また、経常時の教材費等として81,000円必要です。</small>
入試説明会	10月13日(土)、20日(土) 午後1時から 於・中学校 11月9日(金)、10日(土) 午前10時から 於・中学校 <small>（いずれも見学会をかねています。開始時刻、及び会場にご注意下さい。）</small>	10月27日(土) 午後2時から 於・高等学校

※諸経費は2001年度のもので、情勢により変更することがあります。

会 務 報 告

専務理事 有田 和男 (31回)

1 はじめに

平成12年度の会務報告を申し上げます。当該年度は20世紀の終わりを飾り、新しい世紀を迎える意義ある年度であります。よって役員総会でご承認を得ました活動方針に添って、その内容ある実現に知恵をしばり懸命の努力を傾注して参りました。然しながら、その目標とするところが何処まで達成できたか、はたして皆様のご理解とご共感が得られたかどうか。それだけの達成感を持つに至っていますが、これから歩む新時代の厳しい道程を考えた時、これでよいのかと云う不安と責任感が交錯しているのが現状であります。

今後とも、その実りある達成を目指して更なる努力を尽くす覚悟しておりますので、皆様方の一層のご理解と暖かいご協力、そして更なる叱咤激励を賜ることを切にお願い申し上げます。

平成12年度と同窓会の運営と活動につきましては、先の会報・第63号にて、既にご報告を申し上げましたとおりであります。よって、ここでは重複を避けさせて頂きまして、同窓会の現状認識と将来展望を感覚的に捉え、その所感の一端を申し述べさせて頂きます。皆様方のご意見・ご批判を頂戴できれば有り難く存じます。

2 同窓会の運営と活動の現状

同窓会の運営と諸活動の中で、最近とみに痛感し難しく感じていることがあります。母校が創立されて来年で85周年を迎えます。その卒業生は高商・工専を含めて1万5千人を越えますが、現有の同窓生は約1万1千人を数えます。そして、その歴史を見れば戦前・戦中・戦後を経て現在に至っています。この間に育った時代背景と、その培われた精神環境の相違が、母校と同窓会に対する見方・考え方・接し方に、卒業した年次と年齢差もあって、大きな温度差が少しずつではありますが出てきています。これが、同窓会の運営と活動に、或いは同窓会の在り方・進め方、その方向付けと意思決定に、徐々にではありますが表面化しつつあるように思われます。ただ、この差異が大きな問題となるには至っていませんが、この受け取り方の格差が同窓生個々にあることは事実であり、これらのことが母校と同窓会に対する意識と認識の底流にあることも確実であろうかと考えます。

このことが近い将来には、同窓会の秩序と調和のとれた在り方・歩み方に、或いは母校と共に歩む同窓会に、更には母校愛で結ばれる同窓生の連帯感に、一つの障害(一部同窓生の同窓会離れも考えられる)となって表面化するのではないかと、不安と心配が考えの中につきまといまいます。同窓会の運営と活動の中で、その接し方・意見の相違・考え方の落差等については、お互いの意思疎通の円滑化をはかり、その融和を求めてお互いの接点を近づける努力を行っています。また、これらのことを表面化させ混乱と対立を来すことのないように、母校愛を無理に押しつけるような、或いは会則で締め付けるような愚を冒すことを避け、おおらかな包容力と理解力を持つことを心掛け、同窓会全体を「おおらかさ」で纏める方向で、同窓会の運営と活動を行っています。

しかし、これらのことは避けては通れない時期が到来することも予想されます。よって、新会務運営委員会を発足させ、同窓会財政の健全・安定化問題と共に、これらのことも含めて真剣な議論の展開を行い、新世紀に相応しい同窓会の在り方と進むべき道筋を見い出したいと

願っています。その議論の経過につきましては議事録に残し、その結論(結論が多岐に渡っても、色々な選択肢と、その方向付け)を、会長への答申書(議事録を添付)で纏め提出したいと願っています。

新しい21世紀を迎えて、特に同窓会に厳しく問われ求められていることは、同窓会として同窓生に何ができるのか。同窓生全体が何を求め何を為そうとしているのか。新時代はIT革命に象徴されるように、急速な進化をもって進みつつあります。この中において、我等の同窓会を、どの方向に導こうとしているのか。同窓会の存在意義さえ問われようとしています。同時に考えるべきは、同窓会として母校(在校生を含めて)に対して何か有益なことをしているのか。何かを為すべきではないか。何ができるのか。これらの問い掛けを、最近になって多く頂戴するようになりました。一方で同窓会をそんなに難しく深刻に考えることはない。同じ母校を持つ同窓生として、単なる親睦団体でよいのではないか。その情報発信である会報と、同窓生の集まりの場を設定するのが同窓会である、との常識的なご意見も伺っています。

これらの問い掛けの内容も、戦前と戦後、また最近に卒業された方々の間に、大きく問題意識の投げ掛け方・受け取り方に時代的・年齢的な相違があり、同時に同窓会への期待度に対する感覚の差などが顕著に現れてきています。同窓会として、これらを意見統一して纏めることは至難の技であります。別の観点から考えれば、一つに纏める必要性はなく、先にも申し述べましたように「おおらかな包容力」をもって、それぞれの主張・意見に対して、お互いに理解度を深めあい、進化していく新時代に歩調を合わせてともに歩みたい。同窓生の誰もが心の中で共有できる同じ学び舎から巣立ち、お互いの青春時代を共感できる場、それが「母校・甲陽」であり、「甲陽学院同窓会」ではなからうかと思えます。

ここで、我々として忘れてならないことは、最初に同窓会を発足させるのに、先輩諸氏の大変なご苦労とご努

力があつたと聞いています。何もないゼロから同窓会を組織化して、他校の同窓会を凌駕するまでの同窓会を育て上げられました。その歴史と伝統を先輩諸氏から引継ぎ・守り・立派に育て上げ発展させる義務と責任が我々にあると考えています。

- 我々は、現在の厳しい社会・経済環境の中で、新しく
- ① 同窓会財政の赤字体質からの脱却と、その健全化と安定化を図る。
 - ② 新時代に即応できる事務局業務の合理化と機械化(パソコンとインターネットの活用)。
 - ③ 新世紀に対応できる同窓会運営と活動の刷新と活性化。

この3点の目標を掲げ、「母校とともに歩む 甲陽学院同窓会」を旗印に、その難しい作業を行っております。まだまだ為さなければならない難問題は山積しています

が、会報の刷新と会員総会の活性化は、ご承知のとおり成果を挙げつつあります。諸会議等での実り多き議論も、お互いの意見は尊重するも、舌鋒鋭く白熱した議論が交わせるようになりました。お互いに前向きな発想で所期の目的を果たしつつあります。

現在の執行部は、21世紀のIT革命・グローバル化の時代に即応できる「新しい同窓会の創造」を求めて、更なる同窓会の進化(見直し・進歩・活性化)への道を歩みたく思っています。一方、「温故知新」の言葉も大切にして、先輩諸氏から後輩に引き継がれていく、誇りある歴史と伝統の長い鎖の輪を、自分の輪のところで錆びつかせることなく、光輝く輪に更に研ぎをかけて、次代の後輩諸氏に引き渡せることを強く願っています。皆様には、現在の同窓会の運営と活動に、色々のご意見・ご批判等もあろうかと思ひます。お考えをお聞かせ下さい。

3 平成 12 年度・役員総会について

平成 13 年 4 月 3 日に、平成 12 年度の役員総会が、母校の跡地にあります甲子園都ホテルにて開催されました。その議題は、

- ① 平成 12 年度・会務報告。
- ② 平成 12 年度・決算の承認を求める件。
- ③ 平成 13 年度・事業計画の承認を求める件。

- ④ 平成 13 年度・事業予算の承認を求める件。
- ⑤ 新終身会費制度の特典の期限延長を求める件。
- ⑥ その他の事項。

上記の5件とも、上程されました議案内容のとおり承認されました。監事の監査報告も同じく承認されました。その他、有益なご意見・ご指摘事項も頂戴致しました。

4 平成 12 年度の決算について

平成 12 年度の収支は、左記の決算書のとおり昨年度からの繰越金に、収入 1,534 万円を加えまして、収入の総額は 2,734 万円となりました。支出の面では 1,016 万円の支出となりましたが、特別会計に「新基本金」なる科目を設け 1,000 万円を新規に積立てましたので、支出総額は 2,169 万円となり、差引収支では約 717 万円が新年度への繰越金となりました。

* 収入面での年会費・終身会費は、予算目標に対しまして、約 300 万円ほど目標を上回りました。

* 支出面では、全体として予算を下回る推移となり、合理化・経費節減の効果が徐々に出てきたと思います。

これら収支の結果につきましては、皆様方のご理解とご支援の賜物と、ここに御礼と感謝を申し上げます。

5 平成 13 年度の予算について

新年度予算は、外には厳しい日本経済の状況に取り巻かれ、内には同窓会費納付の減少傾向の中で、新年度の予算編成を行わざるを得ませんでした。然しながら、我々の同窓会活動は、一時の停滞も退歩も許されません。逆に 21 世紀に突入して、新時代に対応できる同窓会の在り方・進め方を求めて、同窓会の確固とした基盤を整備し、甲陽学院同窓会は如何にあるべきかの議論を沸騰させ、前進を続けなければならない義務を背負わされています。この考えに立って新年度の予算を編成し、先の役員総会でご提案を行い、ご承認を得ました。

今回、「母校後援費」なる科目を新設しました。これは同窓会として何か母校の為に役立つことを、とのご意見にお答えして、少しでも何かをとの思いからです。

● 平成 12 年度・決算書 ●

[収入の部]			[支出の部]		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
会費	13,967,034	11,000,000	人件費	2,028,000	2,060,000
※年会費	2,010,034	1,500,000	※月手当	1,475,000	1,500,000
※終身会費	9,867,000	7,500,000	※夏冬手当	280,000	280,000
※新卒入会金	627,000	600,000	※通勤費	273,000	280,000
※新卒年会費	1,463,000	1,400,000	交通費	38,860	100,000
名簿収入	212,000	60,000	需要費	1,040,289	1,350,000
広告収入	110,000	200,000	※通信費	569,098	600,000
総会会費収入	789,500	500,000	※事務用品費	141,123	150,000
雑収入	0	0	※備品費	330,068	600,000
利息収入	69,861	20,000	会議費	3,502,436	2,800,000
寄付金	200,000	0	※会員総会費	2,101,115	1,200,000
基本金解約	0	0	※役員総会費	299,554	300,000
収入合計	15,348,395	11,780,000	※理事会費	255,769	300,000
繰越金	11,993,131	11,993,131	※委員会費	537,267	700,000
【基本金 10口 22,950,000円】			※懇談会費	308,731	300,000
* 定額郵便預金	1,000,000円		事業費	3,206,724	3,650,000
* //	3,000,000円		※甲陽だより	1,076,250	1,200,000
* さくら銀行(スーパー定期)	1,000,000円		※郵送料	1,310,058	1,400,000
* 三菱信託(貸付信託)	1,350,000円		※振替用紙代	123,480	200,000
* //	1,600,000円		※封筒代	104,947	200,000
* //	1,320,000円		※記念品代	591,989	650,000
* //	1,480,000円		雑費	353,298	520,000
* 三和銀行(定期預金)	1,200,000円		※校内志	40,000	50,000
* //	1,000,000円		※慶弔費	95,303	100,000
* //	10,000,000円		※振替料	105,070	170,000
【新基本金組入れ】			※その他雑経費	112,925	200,000
* さくら銀行(定期預金)	5,000,000円(20分)		支出合計	10,169,607	10,480,000
* 定額郵便預金	5,000,000円(20分)		予備費	0	13,293,131
【特別積立金】			新基本金組入	10,000,000	0
* 三和銀行(普通預金)	500,000円		支出総計	20,169,607	23,773,131
収入総計	27,341,526	23,773,131	収入総計	27,341,526	23,773,131
繰越金	11,993,131	11,993,131	支出総計	20,169,607	23,773,131
差引収支	5,348,395	11,780,000	差引金額	7,171,919	0
繰越金	11,993,131	11,993,131	次年度繰越金	7,171,919	0

(単位：円)

6 「基本金」等について

過去からの基本金の変遷を見ますと、先輩諸氏が同窓会の将来を考えられて、特別会計として「基本金」なる積立て制度を発足されました。その総額は2,173万円が蓄えられました。ところが同窓会費納付の激減から、これを取り崩さざるを得ない赤字体質となり、一時はその時の執行部のご努力により改善されるまでに至りましたが、阪神大震災の影響もあって平成9年には、1,295万円まで、約900万円ほど減少しました。

これが平成10年からの財政再建策が実り、11年度末には剰余金から1,000万円を基本金に戻しまして2,295万円と、過去最高の積立額となりました。この基本金につきましては、今後は絶対に取り崩すことのない、同窓会として有意義な使途を目的とする「基本金」として、次代に引き渡すべきものと考えます。よって、12年度の剰余金からの1,000万円は、「新基本金」なる特別会計を別個に新設して、これをもって将来の財政不安に備えたいと、先の役員総会にご提案をさせて頂きまして、そのご承認を得ました。

更に、昨年度の寄付金50万円を主体として新設しました、特別会計の「特別積立金」は、更に20万円のご寄付があり、これを「特別積立金」に繰入れる予定であります。この積立金の使途については、同窓会として、母校の在校生・卒業生を対象に、進学への奨学金に充ててはとの意見も寄せられており、これらについては、時間をかけて慎重な議論を重ねたいと考えております。

7 「新終身会費制度」の「特典」の期限延長について

標記の制度は、10年度末から実施され、この制度自体は以後も継続されますが、この制度の促進を図る為に設けられました、「終身会費・各回別納付金額設定表」の納付金額の設定が「特典」となっており、これが12年度末（13年3月末）までの時限立法となっています。

この金額の算定は、年会費を1,000円とし、25歳から年会費納付終了の75歳までを50年間と見れば、その合計額は5万円となります。これを新終身会費の上限を3万円・下限を1万円と設定し、各卒業回の格差を500円として算定したのが、納付金額にメリットを付加させて頂いています下表の各回別の納付金額です。

これを13年度から、終身会費の上限を5万円に戻して、金額設定のメリットを除いた平常の納付金額にするか、或いは現在提起されている年会費2,000円に増額された数字で計算された、終身会費の金額に設定をし直すかの結論を迫られております。しかし、現在の置かれております経済状況と生活環境を考える時、これを実施するに時期尚早の感があり、「特典」の期限延長を役員総会にご提案をさせて頂き、そのご承認を得た次第です。

皆様には、この終身会費制度の金額的メリットが付加された「特典」を活用されて、その期限延長の期間内に、煩雑な毎年納付の年会費から、一回限りの終身会費の納付に切り替えて頂けることを願ひ申し上げます。事務局としましても、時として出ますパソコンへの入力ミスも少なくなり、事務の合理化に繋がることとなります。

●平成13年度・予算書●

Table with columns for [収入の部] and [支出の部], listing various financial items like 会費, 雑収入, 寄付金, 基本金, etc., with 13年度, 前年度, and 差引額 columns.

●終身会費・各回別納付金額設定表●

Table with columns for 回生 and 金額, listing payment amounts for 1回 through 30回, including specific categories like 高商・1, 高商・2, etc.

会員だより



21回 桜組クラス会

平成12年度のクラス会は、晩秋の11月16日、申合せどおりの第3木曜日夕方4時から、例によって、西宮は“ぐるめS子”で開催されました。1年ぶりの再会ですから話はずんで、料理をたしなみながら時の経つのも忘れるくらいでしたが、お互い後の都合もあることで切りのよいところで一応お開きとし、直ちに席を隣接のお馴染み“L亭”に移して、有志の二次会は、カラオケでナツメロや軍国歌謡など思う存分に歌って別れを惜しみつつ、来年の再会を約して散会しました。

来年はやはり11月の第3木曜日開催を確認、新顔の参会を期待することにしましたが、ただ残念なのは、ほとんど常連だったG兄が急病のため急きょ欠席、来年の出席も見透しが立たないことになったことです。

なお当日の出席者は石田、越智、鍵本、加藤、木村、鈴木、堀、横山の諸兄に私長村でした。

(長村 記)

22回 橘友会



平成13年4月8日11時30分橘友会の有志7名がJR津山駅に集合、絶好の行楽日和に恵まれて、地元在住池田善海君の案内で津山城址鶴山公園に向かいました。

津山城は、1604年から13年かけて、森蘭丸の弟、忠政が築城した城で、城郭は取り壊されたものの、99の櫓跡と見事な石組みの曲線美は、姫路城、熊本城とともに三名城と称せられる、と道中で説明する池田君のご自慢は、城の表門を入り、三の丸、二の丸と石段を登りながら眺める絵画そのものの光景により見事に証明されました。

そここの石垣を包みながら爛漫と咲き誇る桜花、上下左右の花、花、花によって織り成す立体美のえも言われぬ迫力、御馳走の上に花びらの舞い散る優雅な弁当を終え、一同大満足で称赞の内にお花見を終えました。

津山二代藩主、森名継が京都仙洞御所を模して造ったという衆楽園の庭園を見物し、二、三十匹の鯉が泳ぐ立派な池田邸で休息後、車2台で湯郷温泉へ。

湯郷グランドホテルの露天風呂併設《長寿の湯》で汗を流し、宴会では飲み、食い、語り、年を忘れて中学時代のヤンチャ振りを再現、大いに盛り上がりました。

翌9日は車で大原町「武蔵の里」へ、武蔵資料館で孤高の剣聖宮本武蔵に触れ、生家跡、姉おぎん宅、武蔵神社、武蔵の墓、記念碑や、少し離れた大原本陣跡のある旧町並み保存地区を見物し、昼食後、智頭急行線大原駅から特急「スーパーはくと8号」で帰りました。

当日の参加者は、写真向かって左から、池田善海、白岡、菅野、横地、斎藤、池田貞夫、酒井です。

(酒井 記)

23回 23会ゴルフコンペ



23会ゴルフコンペを春秋2回開催していますが、本年4月17日ダンロップ、ゴルフコース（パブリック）で行ったのが、早くも第21回目となりました。

23回生の合同懇親会の席上、ゴルフ同好の士で親交の場を設けてはどうか、梅組の大橋さん（昭和35年第1回中日クラウンズのベストアマ）にお世話願えればとの提案があり、平成2年9月1日第1回コンペを同コースで開催したのが始まりです。

大橋さんに常任幹事として、設営、案内の一切の世話をして頂き、毎回3～4組で開催していますが、23回生でこの会の存在をご存知でない方もおられますので、1組でも参加を増やしたくご披露申し上げた次第です。

腕前は玉石混淆、親睦と健康維持をモットーとしている本当に楽しい会なので、多数のご参加を期待します。

尚1年前後の22回生24回生の方々のご参加も大歓迎です。

申込先 大橋貞吉 芦屋市緑が丘町20-10-501

(土井 記)

追記 既に22回生平田豊さん、本荘秀雄さんより次回10月5日にご参加の申し出を頂戴しました。

25回 天文会



造幣局桜の通り抜きの開催日に合わせた訳ではありませんが、平成13年4月17日(火)快晴の午後、昨年と同じ梅田の阪急グランドホテル27階「グランド白楽天」(中華料理)にて開催致しました。

まず最初に恩師故 北村善一先生並びに会員物故者諸君の御冥福をお祈りして全員で黙祷をし、そのあと乾杯をして各自の近況報告及び欠席者の現状を知ってる者が説明をしながら約3時間、歓談、飲食を楽しみました。最後にお互いに健康に気を付けて、来年も元気で再会出来る様誓い合せて散会しました。特筆すべきことは、過去2年間連絡のとれる会員24名に物故者が無かったことです。来年も4月に同場所にて開催を予定しております。

猶当日の出席者は下記の10名です。

- 前列左より 押目圭市 小松久男 有山寿一 畑中 弘
 - 後列左より 谷元和三 大芦民男 嘉治井久雄
 - 村上誠一 新美政隆 波々伯部繁
- (村上 誠一、波々伯部 繁 記)

36回 学年同窓会



21世紀幕明けの年の記念すべき第36回生同窓会は、去る5月12日(土)、大阪梅田の新阪急ホテルにおいて、関東方面からも4名の参加を得て、総勢29名が出席し、懐かしさ溢れる雰囲気の中で、盛大に開催されました。

各自の近況報告もつつい熱が入り、タイムオーバーが続出しましたが、大変、楽しい一刻でした。

恒例の特別トークは“因果の道理”について、同窓生の岡居真恭住職が解り易く語り、出席者の共感を呼びました。

翌日は、有志によるゴルフコンペが、キングスロード(兵庫県吉川町)で行われましたが、10名の参加者があり、楽しく賑やかに全員無事に完走いたしました。

(大野 記)

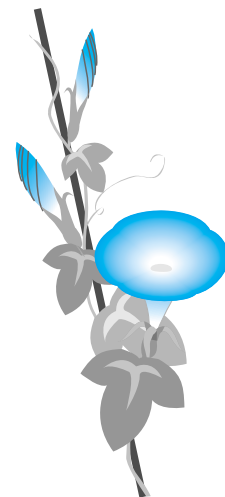
44回 藤吉会

昨年12月17日、藤野吉平先生の傘寿のお祝いの会が喜多穀君の幹事のもと、日本料理「大和屋三玄」で行われました。特別に岡西先生と1年後輩の陶芸家田中君の参加を得て総勢22名が出席しました。名のある高級料亭ということで最初は緊張していましたが、徐々にいつもの藤吉会のムードになり、先生に花瓶と図書券のお祝いをお贈りする頃には会は最高潮に達しました。先生は相変わらずお元気で、ご挨拶では11月に中島博先生、中川経治先生と行かれた伊豆ドライブ旅行のことや森鷗外のお話などがいました。我々も先生の健康にあやかって節制に励み、次の米寿の祝いの会には全員元気に集まろうと誓いました。

4月7日、絶好の花見日和の下、3年前早世された陶芸家の滝山君の遺作展「偲ぶ会」が伊丹の滝山邸で行われました。彼は台湾故宮博物館の陶器に魅せられ1986年陶芸家の道に入り、伊丹黒、伊丹茜、伊丹青磁など彼独特の作品を数多く発表して将来を囑望されていました。我々同期にとって藤吉会でも中心的存在でしたが、当日は彼に縁の深い京大の友人達、陶芸の仲間、ご近所の方々など多くが集まり、彼の作品と人柄にあらためて敬意を表した次第です。中島久先生と岡西先生もお越し下さり、同期では遠く群馬や東京、岡山、広島方面からも駆けつけてくれました。

夕方からは滝山邸を後にして場所を伊丹第一ホテルに移し、今年最初の藤吉会が三木君の幹事のもと盛大に行われました。「偲ぶ会」に参加された両先生、藤吉会以外の同期の仲間も含め34名の多数が参加してくれました。2時間ほどの短時間でしたが、久しぶりに会う面々も多く旧交を温め会い、最後は校歌斉唱と高校時代応援団の川淵君のエールでお開きとなりました。次回幹事は竹内君です。

(林 記)



異色のレストラン 白鹿クラシックス オープン

Hakushika
Classics

同窓会名誉会長 高垣雄二郎 (15回)

母校甲陽学院高等学校中学校のある西宮市は、いつのまにか人口が急増し、44万を突破するのも間近い都市となった。六甲連峰を背に、魚類の豊富な大阪湾に臨み、大阪・神戸にかこまれた理想的な健康文化都市を形成している。折角こんな環境に恵まれた生徒達にとっては大いに自分の長所をのばして、折角の意義深い青春時代を過ごされることを望む。私にとっても過去85年の長い人生で、甲陽中学生時代ほど心深く楽しい思い出いっぱい時代はなかった。

さて、この町の表玄関、阪神電車の西宮駅の近くには、鎌倉時代の大練堀（重文）にかこまれた境内の楠の森の中に、商売繁盛の福の神“えべっさん”西宮神社がある。この神社から少し南へ下ると、道路＝臨港線にでる。

この辺一帯は、有名な灘の生一本を生み出す酒造のまちである。甲陽学院設立者の辰馬ご本家の経営される辰馬本家酒造株式会社もここにある。白鹿酒造博物館の真向かいに、白壁と土蔵そのままに、その名もゆかりの深い『白鹿クラシックス』と名付けられて、この程、レストランに加えて蔵元直送の銘酒等のならんだショップも併せてオープンされた。明治大正に建造（100年～170年前）された60～70センチもある白壁と煉瓦づくりの重厚な酒造倉六棟を接続して天井も高く梁板もそのままである。昼はご婦人方に人気の高い手軽なランチ（コーヒー紅茶サラダ付 900円）。さて夜になると、海鮮料理、



名物紙鍋等々のほか珍味もそろい、シェフ自慢の料理がある。ここに特筆するのは白鹿直営だけあって、他所にはどこにもない蔵元独特の銘酒－今しばらくの適度に冷やした原酒を飲むことのできるのが、この最大の名物である。行くときは、前以て予算の程を申し入れしておくのもよい。またこれに付属して、テラスも設置されているので、日によっては、青空のもと、星空のもとで、お茶あるいは絞った原酒をすすめるのもよい。マイカー利用の場合は、隣接して東側に約30台位収容できる利用者の駐車場がある。

営業は午前11:00より午後10:00、火曜日定休
前もって予約することをすすめる TEL 0798-35-0001

投 稿

“宮川秀一先生を偲ぶ” 山内 勉 (33回)

昭和21年、旧制甲陽中の最終入学から、27年新制甲陽高校卒業までの六年間、ずっと甲子園でお世話になりました。

宮川先生から「これからの歴史は、HISTORYでなく、GESCHICHTEでなくてはならない」とのお話が、授業中にあった様に思います。

と言いますのは、「従来の歴史は、時代・人物を教えた。これからは、時代に起こった事象・事件を学ぶべきだ」という事から、今までの歴史教育を根底からとまではいかないまでも、これが、敗戦による歴史観かと、子供心に思った次第でした。

「天平の薨」等の“天平”は“てんびょう”と仮名書きがある等々、先生の教えをこれぐらいしか覚えて居りません。

「そんな事を教えた事はない」とお叱りの節は、先生何卒御容赦の程を！

敗戦直後の甲陽は、校庭東側の校舎に占領米軍が駐留して居り、校庭でドラムを敲きながらの軍事行進が行われていました。また、校庭外南側の畑で「農耕」という授業や、窓ガラスは爆風で破れ、網に風防ガラスの液を浸した代用ガラスのある教室で授業を受けていました。

右も左も、社会主義者・共産主義者でない、夜も日も明

けない頃で、それが証拠に、公立校での労働組合活動に耐えられず、甲陽に転校された先生が居られました。

さて、宮川先生の古稀のお祝が、旧甲陽跡の都ホテルであり、地歴部に属した事もない、出来の悪い生徒で「甲子園球場で、池部良、司葉子の野球選手の映画が作られた時に、エキストラで、一場面出ていたり、阪神甲子園駅、東出口で、宝塚在籍中の八千草薫の撮影を見に行っていた」このような卒業生の私に、出席せよとのお誘いがありました。

ホテルに行ってみますと、野郎だけの筈が、若い御嬢ちゃん等が多勢いて、この女性たちが大手前女子大卒生だと解るのに時間がかかりました。先生は、私の名前を覚えて居て下さっていて恐縮しました。

ずっと甲子園に居りましたが、何時、甲子園から夙川北部に高校が移転しましたかを忘れてましたが、まだ甲子園に在った頃は、卒業後も、お会いする機会があったと思います。

祝賀会後、阪神甲子園駅で、一昨年でしたか、お会いしたのが、最期でした。

茲に、平成5年の年賀状に、昨秋教え子達が、多数集って古稀の祝をしてくれた礼状と幼少時は病弱だったとの文面、6年の年賀状は、昨年12月1日が、学徒出陣50周年、10月に、御兄弟姉妹で、生まれ故郷の晋州をお訪ねになり、所詮、私は日本では“永遠にエトランジェ”だとのお葉書があります。

下らん事だけ憶えて居りまして、先生方お許し下さい。

御冥福をお祈り申し上げます。

太田 登先生を偲ぶ

追 想

中島 久 (22回 旧教職員)



太田先生略歴

明治39年10月2日生。

大阪外国語学校を経て、九州帝国大学法文学部を卒業。樟蔭高等女学校から昭和15年甲陽中学校教諭に赴任。甲陽高等商業学校、同じく工業専門学校講師としても講義をうけもち、新制甲陽学院中学校、高等学校では、昭和26年より47年まで教頭に就任。その後、講師として英語の授業を担当する一方、関西大学へも昭和56年まで勤務。

平成13年2月20日逝去 94歳

「健康の秘訣は歯にある。私は今年、喜寿を迎えたのだが、歯は全部自分の歯である。虫歯は一本もない」と自慢げに口を大きくひらいて見事な歯並びをみせていただいたのが、ついこの間のように懐かしく思い出されます。その先生も晩年は耳が遠くなり、お好きであったテレビ番組を見ることからも次第に遠ざかってゆかざるをえなかったとのこと。宿命とはいえ、ご家族の皆様方にとってはさぞかしお辛かったことと拝察されます。

先生が大学を卒業された昭和初期は「大学は出たけれど」の流行歌が一世を風靡した時代で、先生もその例にもれず深刻な就職難のため九州の大学へ進学せざるをえなかったとのことでした。九州帝大を卒業後、大阪の樟蔭高等女学校の創設にも関与しておられた甲陽の初代校長、伊賀駒吉郎先生の推挙により、戦時下の昭和15年、甲陽中学校の英語担当教師として赴任された先生は、同年発足したばかりの甲陽高等商業学校、のち時局の要請により転じた工業専門学校でも教鞭をとられ、戦後学制改革による新制度下の甲陽学院では教科の英語以外に、約20年間三谷先生と共に中学、高校の教頭として芥川校長を支え今日の甲陽の原動力となられたのでした。

約40年に及ぶ甲陽での在職時代は、戦前、戦中、戦後の渦中に遭遇させていただきに言語に絶する苦難の日々を過ごされたことも多かったとのことでした。まずなんとといっても、そのひとつは戦時中に創設された甲陽高商のちの工専の存続問題。ふたつめは新制甲陽中学校スタートにおける教員採用の人事の問題でした。前者については大学に昇格するかどうかということ、後者については教職員の資格基準を旧制高校の免許状を所持している者と限定したため多くの転出者を出したということ、いま思い出しても胸ふさがる思いであると嘆いておられたのが印象的でした。まさに生みの苦しめで、それだけに新制第一回の昭和22年4月、519名の受験者の中から合格した99名の入学式を迎えたときの感動は、はかり知れないものであったと拝察されます。

カンテキという愛称は、先生の四角いお顔が当時家庭で愛用されていたカンテキに似ていたことからきた愛称で、博覧強記そのものズバリの授業内容は、簡潔にして余談少なく淡々としたものでしたが、ときに例外なきにしもあらずで、思い出されるのが1912年北大西洋上で氷山に衝突、1500人以上の死亡者を出し、沈没していったイギリスの大型客船タイタニック号の海難事故のお話です。休日は映画館で過ごされることが多かった先生の象徴的なエピソードでもあります。

平成7年の阪神・淡路大震災の被害をうけ、苦楽園の先生のお宅は全壊の憂き目に遭われたのですが、倒壊の一因に、二階にうず高く積まれていた一万冊をこえる蔵書がその荷重に耐えられなかったのではないかと考えられていることです。数年前、奥様をなくされ独り身であった先生は、このことを機に、枚方市楠葉にお住まいのご令息様のお宅に転居されることになり、90歳をこえてもお夔鑠として図書館通いの日々を送っておられました。

94歳で逝くなられる前日までお元気であった先生の死因は虚血性心疾患。公私にわたりご教導いただいた教え子のひとりとして、ここに謹んで哀悼の意を表しますと共に心から御礼のご挨拶を申し上げます。

太田登先生の思い出

友國 隆 (44回)

本年2月20日94歳の長寿を全うされました。息子様が朝起きられた時には既に亡くなられていたとのことでした。

私は第44回の卒業生です。中学に入学したのは昭和32年です。その後卒業までの6年間私を含め十数人が先生ご担任のクラスでお世話になった関係で追悼文を書かせていただくことになったのでしょうか。甲陽の入学式当日講堂で父兄・新入生に入学時オリエンテーションをされたのは先生であったと思います。私達はC組でその担任をして頂いたのが太田先生だったのです。先生は堂々とした体躯でやや厳めしい風貌でしたので、当時の未だ毎年「今年は戦後何年」といわれ戦争の後遺症の残る時代的背景も考えれば、入学したての12歳児達の殆どは畏怖の念を抱いたことと思います。また聊かまじめであられ、私達相手では話にならないとお思いであったのでしょうか、授業中に殆ど冗談を言うとか脱線することもなく淡々と授業を続けられました。英語を教えて頂いたのですが、時々「お前達こんな言葉を知ってるか？」と黒板に古めかしい言葉や漢字を書かれて説明していただいたことがありました。しかし何であったか残念ながら思い出せません。また授業中騒がしくなると「おーい！静かにせい」と叱られましたが、この「おーい！何々」と言うのが生徒達の流行語であった様に思います。また授業時間に遅れそうになった時など大きな身体をやや前屈みに曲げて小走りに駆けられる姿が印象的に思い出されます。

以上卒業後既に39年もの歳月が経ち記憶がおぼろげになりつつあることや先生ご自身が余りご自身のことを話されませんでしたし、特にエピソードの多い先生でなかったことなどから表面的なことしか書けませんでしたことをお許し下さい。改めてご冥福をお祈りしてお別れの言葉と致します。合掌。

太田登先生を偲ぶ

篠原 慶希 (50回)

平成13年2月20日、太田登先生が94歳の長寿を全うされました。悲しさ、天寿を全うされたという安堵感とともに、私達の青春時代の一つの幕引きを感じました。

私達50回生は、太田先生が最後の担任になられた学年です。東京オリンピックの前年、白風呂敷を抱えて通った香榊園の学舎で、初めて先生にお会いしました。当時50代後半、威風堂々、見事な白髪のお父さんといった印象で、教壇から上目使いでギョロリと睨まれるとその威厳に圧倒されるようでした。慣れるに従い、私達を生徒諸君と呼ばれたり、叱る時も君付け、丁寧語を使われ、大人扱いして下さっている事が分かってきました。また試験の範囲を減らすため、授業中話題を先生のお好きな方向へ持っていき、色んなお話に聞きふけりました。パブリック・スクールやヨーロッパ史の裏話が十八番で、先生の博識に感服しきりでした。卒業後も平成の初めまでクラス会に必ず出席して下さり、持参された洋酒を一人一人に注ぎながら、慈父のように現況を楽しそうに聴かれました。その時も私達の性格や成績、進路更には親の事までよく覚えておられ、私達を大切に教育して頂いていた事を痛感しました。また傘寿を超えられても、威風堂々たるお姿、白髪もそのまま、杯を受ける時、思わず背筋を伸ばし、正座してしまう威厳もお変わりありませんでした。阪神大震災の後、ご子息のお宅でお暮らしで、昨年末御家族の方に近況をお伺いしたのが最後となりました。書物を読まれたり、横になったりの生活との由で、最期まで博学の太田先生のままで居られたと感無量です。

50回生213名、20名が中高6年間太田学級の生徒でした。50歳を超えられた先生との出会いのため、諸先輩方と想い出も異なるかと存じますが、多感な6年間太田先生にご指導頂きましたことは、私達の人生の大きな財産になっています。深謝とともに太田登先生のご冥福をお祈り申し上げます。

■封筒下の記号の見方

平成13年6月15日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会員H11年度 ←

♪ 卒 1 1 1 1 1 1 1 0 0 終

① 上段には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

② 下段には左から順に、平成元年度、2年度、…11年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院に在籍
0	未納			卒	その年の3月に卒業

従いまして、**下段に含まれる0の個数 × 1000円**が、未納の年会費となります。同封の振り込み用紙にてお支払いください。

下に、さらに具体的な記号の例と説明がありますので、よくお読み下さい。

終身会員H10年度

1 1 1 0 1 1 1 1 1 終

H10年度に終身会費を納められました。H4年度を除く全年度の年会費は納められています。H4年度分の年会費をお納め下さい。

0 0 0 0 0 0 0 0 0 1 0 0

H11年度のみ年会費を納められています。12年間分をお納め下さい。

H15年分まで前納

1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

H15年度まで前納しておられます。

★H1年以降に御卒業の方は、卒業時から7年分の年会費を予めお納め頂いております。次の二つの例をご参照下さい。

♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1 1 0 0 0 0

H10以降は未納です。未納分をお納め下さい。

H15年分まで前納

♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ ♪ 卒 1 1 1 1 1

H8年3月に御卒業、さらに1年分の年会費を頂いたので、H15年度まで前納しておられます。

⑩尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合わせ下さい。



訃報

左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

西山 保氏 (工業経営)	高橋 寿郎氏 (高商2)	三木 伊作氏 (高商2) (旧姓・大西喜久蔵)	百済 孝氏 (高商1)	奥田 英次氏 (高商1)	丸山 公氏 (36回)	陶山 英雄氏 (36回)	小池 尚正氏 (34回)	四塚 利昭氏 (24回)	藤井 正俊氏 (24回)	浜田陽太郎氏 (23回)	新谷 史男氏 (23回)	吉村 耕朝氏 (22回)	入野 富夫氏 (21回)	倉石 秀夫氏 (21回)	稲葉 明氏 (21回)	極楽地 章氏 (21回)	戸井 昌造氏 (20回)	橋本 和夫氏 (20回) (旧姓・島崎)	佐藤 由夫氏 (20回)	岩間 富男氏 (20回)	深水 謙蔵氏 (19回)	近藤 雅美氏 (16回)	松田 光雄氏 (14回)	浮田 務氏 (10回) (旧姓・井上)	石井信治郎氏 (10回)	山崎 豊彦氏 (9回)	田川 茂氏 (1回)	97年2月12日逝去
91年4月29日逝去	99年4月1日逝去	00年2月27日逝去	01年2月15日逝去	01年3月11日逝去	01年2月1日逝去	01年4月9日逝去	00年2月10日逝去	00年10月8日逝去	01年3月3日逝去	99年11月1日逝去	00年10月27日逝去	01年1月26日逝去	01年3月1日逝去	01年5月21日逝去	01年3月9日逝去	01年5月24日逝去	00年4月17日逝去	00年3月6日逝去	99年11月5日逝去	87年6月16日逝去	00年1月30日逝去	00年2月24日逝去	01年1月15日逝去			00年4月1日逝去	97年10月21日逝去	97年2月12日逝去

(平成13年6月20日現在)

告 知 板

☆「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第65号は、来年の2月中旬に発行を予定しています。原稿としまして、「21世紀を展望した同窓会の在り方」など、「母校・甲陽」或いは「同窓会」に関係した、皆様の貴重なご意見・提言・提案・母校への思いなどの原稿をお待ちしています。
- * 更に、「会員だより」・「文化部・運動部のOB会の活動状況」・「各支部の動向・催しの案内」・「各職場の甲陽会の動き」・「甲陽趣味の会・同好会の状況」・「海外在住の同窓生の活動状況」などの投稿を期待しています。
- * また、同窓生諸氏が一般に発行されます「著書」などを紹介するコーナーなども設けたいと考えています。ご本人はもとより、ご友人の方の情報もお寄せください。
- * 会報は、同窓生の唯一の情報誌です。奮ってのご活用を期待しています。
- * 原稿の締切りは、来年1月10日とさせていただきます。若し、若干遅れるようでしたら、事務局までご一報を頂ければ予定をさせていただきます。

☆ 創立85周年記念 ☆

－ [会員名簿・発刊について] －

来年が甲陽学院の創立85周年にあたります。同窓会では、5年ごとに全同窓生の会員名簿を発刊しています。現在、会員名簿編集・発刊委員会を発足させるべく準備中です。

全同窓生の名簿となると、大変な労力と時間と費用がかかります。また、住所の移転・勤務先の移動・電話番号の変更など多岐にわたる変更が、この5年間であろうと思います。これについては、皆様方のご協力なくしてできるものではありません。

各回卒の理事・評議員の方々にもお手伝いをお願いすることになりますが、我々自身の会員名簿です。何分とも宜しくお願いを申し上げます。

☆ ーご注意ー 偽会員名簿の勧誘 ☆

- * 相も変わらず、甲陽学院同窓会の名前をかたって、同窓会名簿を作成するからと偽り、ハガキ・電話・FAX等により、現住所・勤務先・職歴・電話番号などの照会と、偽名簿（学校別・業種別など）の購入申込みなどを行っているようです。
- * 同窓会では、その連絡先は母校内にある同窓会事務局であり、その住所と電話・FAX番号で、慎重にご確認を下さい。問い合わせ先も事務局です。

☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ ここ5年間に大学を卒業された方へ ☆

- * 特に、ここ5年の間に大学・大学院を卒業された方の、現住所と勤務先等の連絡洩れがあり、その確認が難しくなっています。高校卒業時の住所に連絡をしていますが、住所を移転されたケースも多く、その所在の確認に難渋しています。これらの調査に手間と費用もかかります。
- * また、同期の理事・評議員の方にも照会をしますが、その方々も所在不明で連絡がつかないこともあります。これらについて、同期の方々の皆さんでご協力をして頂きたく、お願いを申し上げます。

◇ 各回の理事・評議員の皆様へ ◇

- * 各回理事・評議員の方々の中で、関西から遠くに転勤されたり、住居を変えられた方が目立つようになりました。また、理事・評議員が選出されていない卒業回も見られます。
- * 同窓会を運営し活動を行う上で、理事・評議員の方は重要な役割を担われており、同時に同期の方々の代表でもあります。
- * 会則上、理事・評議員は、同期の方々の中から、同期の方々が適宜の方法で選出することになっています。同期の方々でお話合いの上、事務局まで再任・新任などのご連絡を、事務局までお寄せ下さい。

☆「甲子園都ホテル」☆

－優待券の期限延長について－

- * 同ホテルの「宿泊」と「飲食」の優待券について、現行の優待券には2000年3月末までと記載されていますが、2002年3月末まで期限延長となります。
- * 優待券につきましては、事務局までご連絡を頂ければ、折り返しお送りいたします。



甲子園都ホテルでWEDDING

スタイリッシュにシンプルに、おふたりのご希望の叶う披露宴をご提案し、ご列席の皆様にもご満足頂ける内容となっております。ご本人様だけではなくご紹介者にも様々な特典をご用意いたしております。



お問い合わせ・お申し込みは「プライダサロン」まで
TEL. 0798・45・3105(直通)

甲子園都ホテル

〒663-8166 西宮市甲子園高潮町3-30
(阪神甲子園駅西口前)

http://www.koshien-miyako.co.jp/
E-mail:enkai@koshien-miyako.com